価値感の多様で婦人会役員はどう対処するか

婦人団体指導者研修会

婦人団体活動を円滑に運営するために、事業の企画及び実施に必要な知識、技術の修得を図ることを目的に、去る七月二十日村公民館と村連合婦人会の共催で婦人団体指導者研修会が開催された。

今回の研修会は、婦人会を対象に行われ、連合婦人会役員と単位婦人会役員58名が出席した。

おもな研修内容は、「集団心理と役員の心構え」について岩船郡平林小学校長板垣広八先生から〝価値感の多様な社会に、婦人一人一人のむすびつきをよくし、婦人の地位を高め、地域をよくするには指導者は、本気でやる。会員一人一人を理解する。所属意識をつくる。会の基本的運営技術を勉強する。新鮮さを失わない。魅力ある婦人になる。他の批判にまけない。〟などの講義があった。

また「婦人団体活動と問題点」で、佐久間順、角田ミチエ、坪谷フク、坂井トミ、長谷川キヨイの五氏が事例発表したあと研究協議がされた。

その中で、沢海上、下、小杉下地区に婦人会活動や部落諸団体の活動する集会所がないことがあげられ、建設運動をどうすればよいか。

婦人会員の高令化と若年婦人層の加入がないのはどこに原因があるか、また婦人会と農協婦人部の活動の連携をどうするか。

小杉地区では、葬式祭壇が購入されている。他部落でもその動きがあるが、具体的なその後の活動はどうなっているか。

など話し合いがされた。

つづいて「婦人団体の事業計画のたて方」について豊栄市生活学校委員長増子ケイ先生から事例発表の講評と事業計画立案の技術の講義があり研修会は終了した。

なお、婦人指導者研修会は年三回計画されている。

事例発表をする婦人会リーダー

指定第1号

藤山「高野槇」を村文化財に

昭和四十八年三月、村文化財保護条例が制定され、文化財調査審議会で検討されてきたが、このほど指定物件第一号を村教育委員会に提示した。

七月十二日、村教育委員会は、藤山田村忠雄氏所有の「高野槇」を正式に村文化財（天然記念物）として指定した。

この高野槇は、県内でも繁茂しているはめずらしく、早くから県文化財指定の声があったが、県内の分布状況の実態がつかめず、県指定は容易でなかった。昨年、佐渡長谷寺の高野槇がはじめて県指定をうけたこともあって、いづれは県指定の文化財になろう。

○形　状

大幹を中心として、下部から枝が下向きに繁茂し、円錐に近い円筒形をなし正見事な形状である。

○寸　法

高さ約20尺　目通りの幹の周囲3尺

○徴証並びに伝来

寛永二年（一六二五）当時新津出家に在住の田村少右衛門、藤山村名主役仰せつけられて着任した時に植えたと伝えられている。少右衛門子孫は代々名主役を勤め、宝暦十一年（一七六一）若河谷新田名主に転じたが、家屋敷はそのまま弟に譲り渡し、高野槇の愛護を依頼して赴任した。

昭和五年秋、三好学博士、この木を写した写真を見られて「北国には珍らしい木だ」と言われた。

右の如く樹令三二五年を越すと思惟されるが、現在樹勢盛んにして、毎年新芽を出し、緑葉鮮やかで樹姿端麗である。

婦人と青年

巡回交流会はじまる

横越村連合青年団では、女子部の主催で婦人と青年の交流会を計画している。

★親の目から見た子ども、子どもの目から見た親。

★青年団活動については婦人の理解を深めてもらう。

★小学校跡地の利用法

等々、やがて母親となる女子青年、かつての女子青年であった母親としての婦人が現在の同じ家庭で、同じ地域で生活しているのであるが、お互いにそれぞれの気持や考えを話し合って、共通理解のできる点を話し合いで求めていきたいという趣旨で行われるものである。まず各小学校区単位で実施し、本年二月全村の交流会を行って話し合いをまとめていくことになっている。

その第一回交流会が七月十日午後七時半から小杉上公会堂でこ開われた。婦人二十名、青年三十八名（内女子二十名）が出席、公民館長、産経課長も加わって、時のたつも忘れて十時過ぎまで話し合われた。

串田副団長のあいさつの後、涌井女子部長の進行で会が進められ三班にわかれてグループ討議が行われた。親はどんな娘になってもらいたいか、ならいものをして良いお嫁さんになる準備をしてもらいたい。ならいものをすると時間がなくて青年団活動などができなくなる。姑さんと嫁さんの話題など、小杉地区の具体的な生活の中から話し合われ、なごやかなムードで進められた。青年団に対しては、かって女子青年団員として活躍された方も多くて、深い理解がなされた。小学校跡地の利用は何らかの形で、是非残してもらいたいという要望が強く打出された。

世代のちがう各年令層の方々のこうした話し合いは、お互いの理解を深めると共に、地域連帯感を強め地域生活向上の上からも、大きな効果がある。今後各地で行われる交流会にも大きな期待が持たれている。

小杉で婦人、青年の共通理解を求めて話し合う

少年リーダー教室始まる

少年団体（部落子ども会、GRCスポーツ少年団等）活動を推進するために、県下でもめずらしい少年リーダー教室が七月十九日から開設され、二月まで毎月一回開かれることになった。

この少年教室には、村内小学校五・六年生46名が参加して行われ、

○少年リーダー教室はどんなことをするか。（少年教室の目的、運営、学習内容、リーダーとしての心構え）

○みんなで考え、みんなで話し合うために。（集会のもち方、討議法）

○たのしいゲーム、ソングをもつために。（ゲーム、ソングの生かし方）

○工夫ある野外活動をするために。（キャンプ活動の意義キャンプファイヤーの運営方法）

○自然に親しむための野外活動。（キャンプ研修奥胎内）

○みんな仲よく、楽しく遊ぶために。（自分たちの遊び、親たちの子どものころの遊び、遊びの工夫）

○村にはどんな文化財があるか知るために。（村文化財、文化遺産、サイクリングで村の文化財をめぐる）

○明るい親子のだんらんをもつために。（親子で家族のだんらん、仕事の役割、こずかいなどについて話し合う）

○たのしいクリスマスパーティーをするために。（パーティーケーキ及び食事をつくる。キャンドルサービスの運営）

○ごくろうさま少年リーダー教室でどんなことが役立ったか。（反省、評価）

などを学習する。

早起野球大会

ロートルズが優勝

村初の早起野球大会が、五月二十七日から一ケ月間にわたって、毎週火、木、土曜日に蛾山野球場と沢海グランドで行われた。

参加18チームで村体育協会々のこうした話し合いは、お互いの理解を深めると共に、地域連帯感を強め地域生活向上の上からも、大きな効果がある。今後各地で行われる交流会にも大きな期待が持たれている。

早朝であるため、寝坊によってチーム全員がそろわず失格したチーム。長期大会であるため、雨天、その他によって日程調整があり、審判をわすれて失格したチームなどがあった。また、定時試合打切りのため、逆転寸前に試合打切りがされ惜しくも涙をのんでしまったチーム。同点のためジャンケンで勝敗をきめたチームがあったりしたが、初の大会にもかかわらず、18チームが出場したこと。新しい野球チームがどんどん誕生していること、ユニホーム着用チームがほとんどであることなど大成功といえよう。

ロートルズは、昭和四十七年度村民野球大会に優勝したこともある。平均年令は、高いが、〝昔とった杵づか〟でチーム力、野球知識は抜ぐんである。

読書感想文募集

夏休み中に読まれた本のなかで、感動をうけたものの感想を次の要領により募集しております。どしどしお送りください。投稿されたもののなかから優秀作品を本紙に掲載するとともに、投稿された方にもれなく記念品をさし上げます。

○感想文投稿〆切日
九月十日まで横越村公民館に

○字数
四〇〇字詰原稿用紙2枚から3枚程度

○投稿資格
村内の中学生、小学生、学校名、学年、氏名を明記するとともに、読まれた本の名前も記入してください。

麦林寺句碑讃仰

小阿賀吟社創立三十周年記念県下俳句大会

日時　八月二十四日
午前九時

場所　横越村公民館

席題　当日午前九時発表

多数の参集をお待ちしております。

新潟県警察官募集

○受験資格
18才以上28才未満の男子で高校卒業程度の学力のもの。
ただし、大学卒業者と明春三月までに大学卒業する見込の者は受験できない。

○受付期間及び場所
8月18日から9月27日までの間、各警察署で行う。

○試験日
第一次試験日　10月5日
第二次試験日　11月中旬

○採用
昭和51年4月

詳しいことは、魚沼警察署（電話五八一―二二二番）または駐在所へお問い合せください。